

「桜の季節(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

サクラの咲き方には一定の決まりがあるようだ。毎年それを解明しようとするのだが、花の時期が短く、あれよあれよという間に、結局散ってしまう。



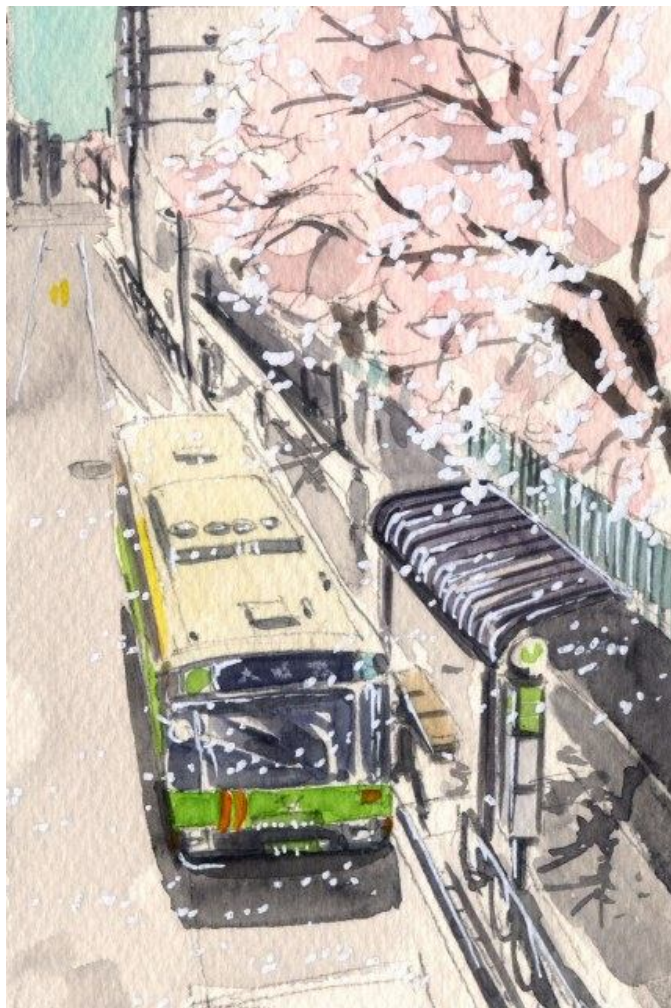
この写真のように、ある枝を見ると、ほとんど満開のものもある。比較的日当たりの良い枝に多く見られるが、ほとんど日影の枝にも満開のものがある。この日は少し詳しく観察してみたが、中央の幹から分岐した、特定の太い枝からのびた小枝は、一様にたくさん咲いているようだ。「気の早い枝」と「ゆっくりな枝」があるのかも知れない。枝の年齢(枝齢)も関係しているかも知れない。



一方、この写真のように数輪しか咲いていない小枝もある。このように開花が遅い枝は、葉が出て来るとも早い傾向にあるようだ。花を咲かせることは、子孫を残す意味で大切なことだが、植物体にとっては、早く光合成を始めたいということだろう。



サクラは描くのが難しい。遠くから見ても、近くから見ても厄介だ。あまり描きたくないモチーフだが、毎年仕方なく描いている。描くのは簡単でないが、描きにくい理由の説明は簡単だ。花卉の色味が乏しいからだ。この絵では、背景を青くすることで、花卉の白さを目立たせている。



私はこういうサクラの絵の方が好きだ。大塚二丁目のバス停である。サクラが散る頃になると、バスが発車するたびに、車両が風を起こし、枝や地面の花びらが、フワッと舞う。この様子が面白くて、何台もバスを見送ったことがある。